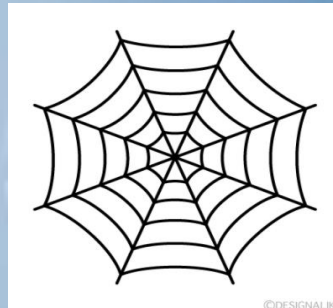


令和3年度 校長だより2号 8月

無事夏季休業が終わります。しかし、昨年よりも新型コロナウイルス感染者数は圧倒的に増え、新生活様式に慣れ、「新」が「日常」に変わってきていたところですが、甘んじてしまうことなく、感染対策を常に徹底しなければなりません。規制ある日常の中に、自分を解放できる何かを見つけ出すことも「with コロナ」の中では大切なことだと思います。皆さんはいかがでしょうか？私は庭の緑を絶やさず、気持ちを安らげるよう、休みの日は庭仕事にいそしんでいます。

さて、子供たちにとっては日常すべてが解放の時であってほしいと思います。やるべきこと・やりたいことが判断でき、その中から学びを感じられる「解放」であるべきだと思います。そのような学びを有意義に感じるには、「マインドセット」が大切です。昨年生徒会長の言葉「コロナだったからじゃなく、コロナだったけど」はとても前向きな「マインドセット」でした。固定観念を持たずに物事を謙虚に受け止め、思考して自分のものに変えていけるように概念や着想を与えることも子供の成長には大切なことです。教科書以外の様々な話や体験や、ご家庭での時間から感じるものがすべてマインドセットにつながると思います。

7月の終業式に「WEB的思考力」という話をしました。くしくも同日に職員研修として元文部科学省視学官現國學院大學教授の田村学先生から「深い学び」について講義をいただきましたが、思考のネットワークという点については同じ見解でした。



私たちは授業の中で教科の知識を学びます。しかしそれは点でしか過ぎない。思考はその点を結び付け、線を描きます。結び付ける点は知識のみでなく経験や体験、調べ学習や探究学習で知ったこと、会話や対話知った雑学なども含みます。そして線は知識や経験を活用し、むずび付けて考えることができたとき強くなります。まさに脳が刺激を受け、シナプスをひろげていくのと同じです。いまだ解明されない脳の機能の中で学習と関係するシナプスの広がり意識できれば効果的な学習につながることができます。生きている限り脳が働けば、人生の学びに終わりはありません。その学びを「深い学び」にするのは、何と何を使えばこの線が広がったと自分が認知し、さらに言語化できた時です。そしてその言葉は科学的・論理的になっているはず。だからこそ「対話」が必要であり、「振り返り」が意味を持つ。これが田村先生のお話でした。

夏季休業前に英語検定の推奨のお知らせを出しましたが、校外のものにチャレンジしていくことは点を増やしていくことです。「大きなWEBを作り上げるには点が多いほうが良い、リーダーになる人は、WEBを大きく広げられる、失敗もまた大切な点になる。」と話しました。そしてまた、1日7時間の授業がなくなった時の時間の使い方も、自分なりのWEBであるという話をしました。この夏季休業を子供たちはどのように過ごしたのでしょうか。前期課程生にとっては与えられた気づきが刺激となり、行動を経て後期課程で言語化されるのが理想的です。日常でのご家庭での話も、その時にどんな視点からそう思ったのか、なぜそう思ったのかなどを意識して「対話」してみると点と線が見えてくると思います。思考が見える「対話」を心がけてみてください。

これからの感染対策は学校と家庭の協働が大切です。自分が置かれているすべての環境で感染する可能性があるため、家族の体調不良は自分の体調不良という意識で行動していただければと思います。もちろん職員も同じです。人のために行動することが自分を守ることです。ともにコロナ禍を進んでいきましょう。